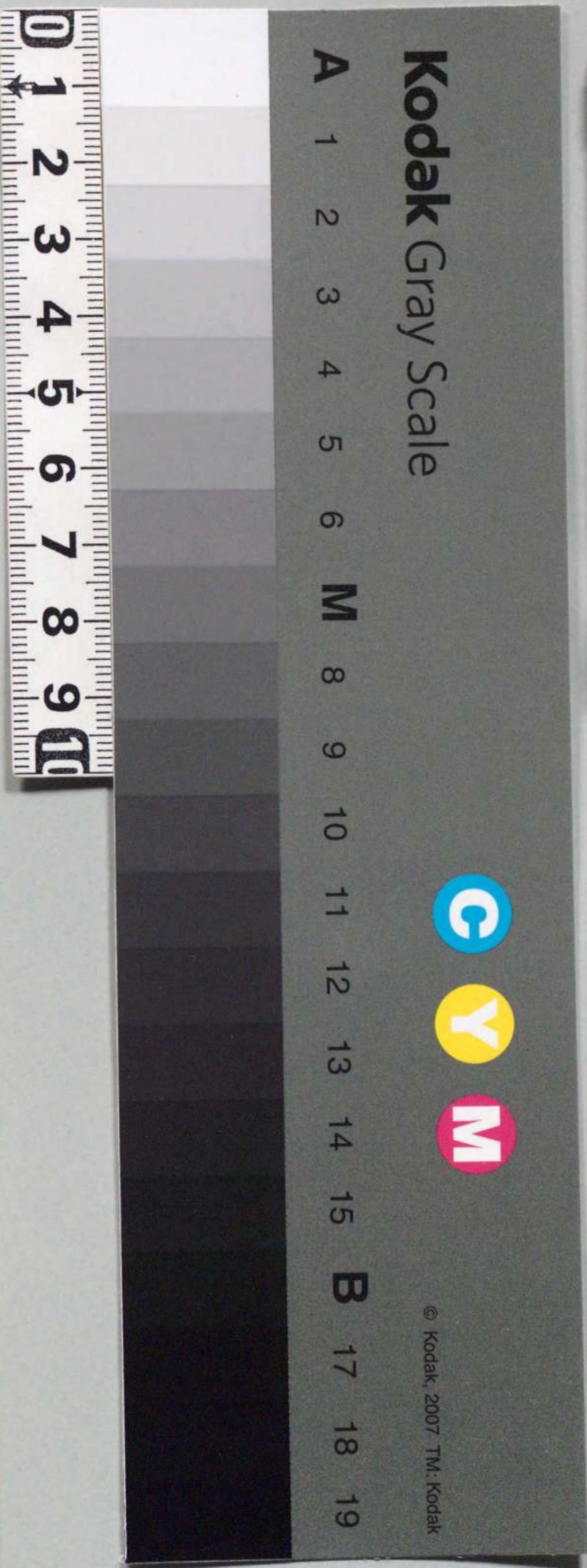
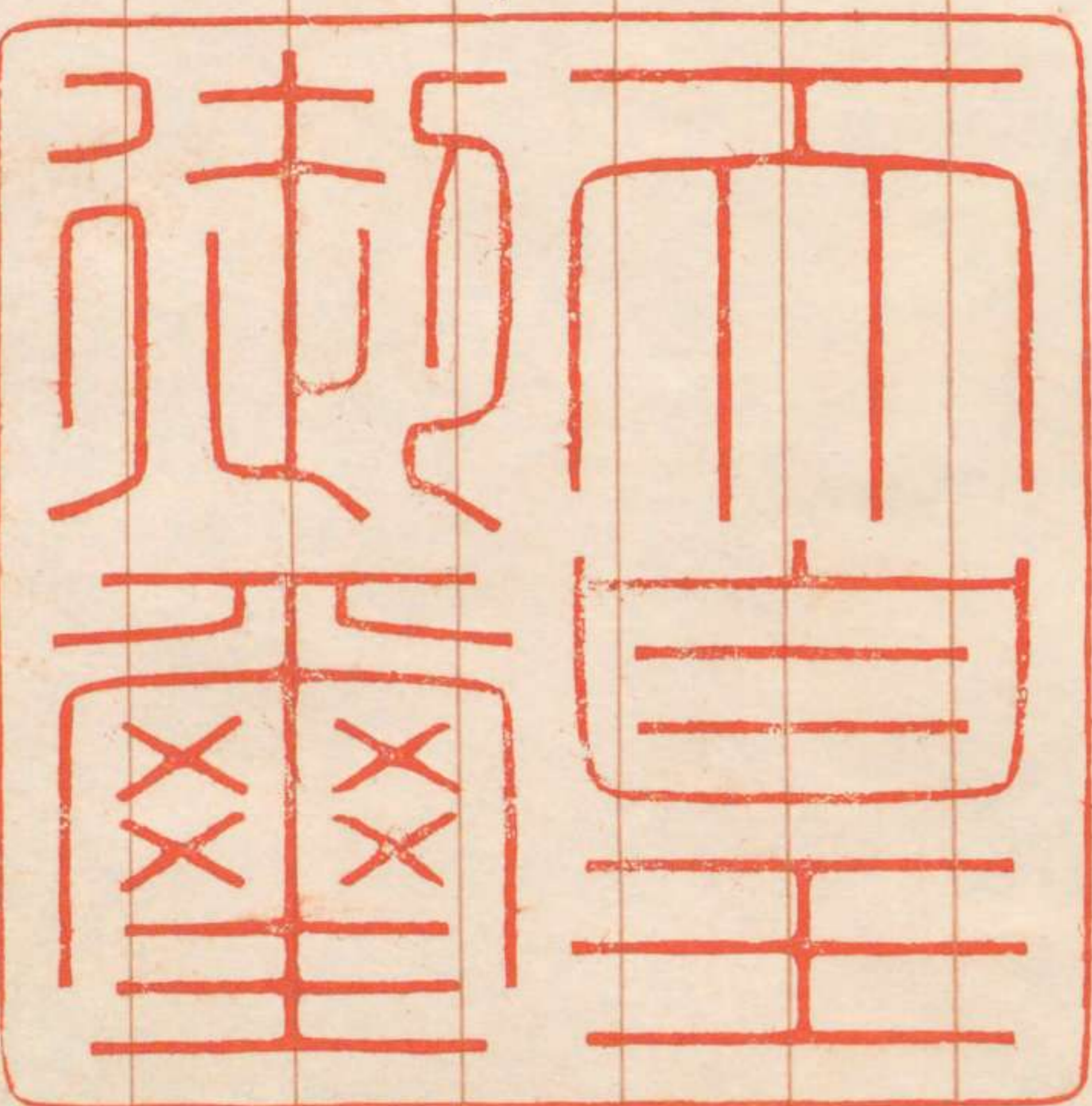


勅令第十四号



朕陸軍乘馬飼養條例ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

睦仁



明治三十年三月二十日

日

月

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第十四號

陸軍乘馬飼養條例

第一條 陸軍中左ノ官職ニ在ル者ヲ乘

馬本分トス

- 一 在職上長官以上
- 二 參謀尉官
- 三 監軍部各副官タル尉官
- 四 在職騎兵砲兵輜重兵科尉官
- 五 憲兵隊附尉官
- 六 歩兵隊副官

七 工兵中隊長同副官同枝料主管
 八 士官學校副官
 九 幼年學校及戸山學校副官
 十 衛戍副官
 十一 傳令使
 十二 皇子附尉官
 第二條 乘馬本分ノ職ニ在ル者飼養ス
 一 陸軍大臣參謀本部長監軍近衛都督鎮臺司令官
 四頭

二 陸軍次官參謀本部次長將校學校監各兵監タル將官監軍部參謀長タル將官旅團長 三頭
 三 參謀佐官各兵監タル佐官歩兵砲兵聯隊長騎兵砲兵輜重兵大隊長騎兵隊附尉官乘馬學校長及乘馬學校教官タル佐尉官 二頭
 第三條 乘馬本分ノ職ニ在リテ前條ニ掲記セザル者飼養スル馬匹ノ定數左ノ如シ

一 将官並相當官

三頭

一 大中佐並相當官

二頭

一 少佐並相當官及尉官

一頭

第四條

第三條ニ依リ飼養スル馬匹ノ

定數ハ平時勤務ニ差支ナキ限リハ之

ヲ一頭マテニ減スルコトヲ得

第五條

上長官以上ノ乗馬ハ總テ自馬

トシ士官ノ乗馬ハ所管ヨリ支給スル

ヲ例トス但士官ト雖モ請願ニヨリ自

馬ヲ乗用スルコトヲ得

第六條

少佐

シテ初メテ職

ニ就ク者ハ

金百圓ヲ給ス

其副馬ヲ飼養

職ニ就キ若クハ

之ニ轉スル者ハ別ニ百圓ヲ給ス

第七條

心得勤ヲ命セ

タル者ハ都

テ本官ニ同シ又上長官トシテ充ル

職ニ在ル士官ハ本人ノ請願ニ依リ上

長官ニ准ス

第八條

手當金並別段手當金ハ一回之

ヲ給スルノ三故ニ士官ニ在テ此手當金

一 将官並相當官

三頭

一 大中佐並相當官

二頭

一 少佐並相當官及尉官

一頭

第四條 第三條

依リ飼養スル馬匹ノ

定數ハ平時勤務

ニ差支ナキ限リハ之

ヲ一頭マテニ付スルコトヲ得

第五條 上長官

上ノ乗馬ハ總テ自馬

トシ士官ノ乗

ハ所管ヨリ支給スル

ヲ例トス

雖モ請願ニヨリ自

馬ヲ乗用

得

第六條

少佐並相當官ニシテ初メテ職

ニ就ク者ハ手當トシテ金百圓ヲ給ス

其副馬ヲ飼養スヘキ職ニ就キ若クハ

之ニ轉スル者ハ別ニ金百圓ヲ給ス

第七條

心得勤ヲ命セテレタル者ハ都

テ本官ニ同シ又上長官士官ヲ以テ充ル

職ニ在ル士官ハ本人ノ請願ニ依リ上

長官ニ准ス

第八條

手當金並別段手當金ハ一回之

ヲ給スルノ三故ニ士官ニ在テ此手當金

ヲ受ケ後上長官ニ進級シ又ハ乘馬本
分若クハ副馬ヲ要スル職ヲ失ヒタル
者再ニ該職ニ轉スルモ之ヲ級スルコ
トナシ

第九條 乘馬本分タル士官ニシテ第五
條但書ニ依リ自馬ヲ乗用スル者ニハ
手當金ヲ給スルコトナク保續料トシ
テ一箇月金壹圓五拾錢ヲ給ス

第十條 凡ソ士官乗用ノ馬匹ハ各所管
ニ於テ之ヲ經理シ支給スルモノトス

而シテ其支給スル馬匹ハ滿五年ヲ保
續期限トシ期限經過ノ後ハ本人ニ下
附シ尚軍用ニ堪ユヘキモノハ自馬ト
シテ乗用スルコトヲ得

第十一條 凡ソ支給ノ馬匹ハ保續期限
内ニ在テハ交換スルコトヲ得ス但廢
疾斃死ニ罹ルトキハ相當ノ馬代金ヲ
徵收シテ交換スルコトヲ得
其廢疾斃死ノ公務ニ起因スルトキハ
馬代金ヲ要セス交換スルコトヲ得但

本人ノ不注意ヨリ生スルトキハ尚前
項但書ニ據ル

第十二條 乘馬本分タル士官死亡又ハ
轉職等ニヨリ其本分ヲ離シ飼養ノ馬
匹ヲ後任者ニ引継カシムル場合ニ在テ
其保續期限ハ前任者受領ノ日ヨリ起
算ス

第十三條 各所管ニ於テハ左ノ人員ヲ
以テ委員ヲ編制シ本條例ニ係ル一切
ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ但人員不足

スルトキハ二所管以上合併シテ編制
スルコトヲ得

委員長 上長官 一名

委員 乘馬本分タル士官 二名

軍吏部士官 一名

獸醫部士官 一名

第十四條 委員ハ本條例ニ據リ購買ス
ル馬匹ノ検査ヲ為シ且飼養中臨時檢
査ヲ行ヒ其軍用ニ堪ヘ難シト認定シ
タルトキハ所管長官ニ具申シ長官ハ

本人ニ命ニテ更ニ適當ノ馬匹ヲ飼養
セシムヘシ